

## 論文

# キャリア構想・キャリア実現における格差は挽回できるか

——大学生の視野を広げるもの——

松川晴美<sup>1)</sup>・浦坂純子<sup>2)</sup>

**要約：**大学生の約3割が将来についての見通しを持てずにいるという事実から、特に大学入学までの実家の暮らしぶりが、その後のキャリア構想、キャリア実現にもたらす格差について検証することを目的としている。分析のため独自にWEB調査を実施し、4年制大学卒業または博士前期課程を修了後3年以内の男女3,090人から回答を得た。

分析の結果、暮らしぶりは、大学入学時のキャリア構想、キャリア実現の双方に大きく影響を与えていた。また初職就職時では、キャリア構想に対する暮らしぶりの影響は消えるが、キャリア実現には強くその影響が残った。

大学生は、やりたいことを探す力さえも生育環境に左右されている。この点を、現行のキャリア教育は見落としている可能性がある。

**キーワード：**暮らしぶり、キャリア、大学生、キャリア教育

## 目次

1. はじめに
2. 問題の背景
  - 2-1. 教育現場へのキャリア教育導入の経緯
  - 2-2. 大学におけるキャリア教育の現状
  - 2-3. 個人の出身階層に関わる社会的背景要因による格差
3. 検証仮説
4. 実証分析
  - 4-1. 調査概要
  - 4-2. 被説明変数の設定
  - 4-3. 説明変数の設定
  - 4-4. 推定結果
5. 考察
  - 5-1. 大学入学時のキャリア構想に影響を与えたもの
  - 5-2. 暮らしぶりによる格差を挽回するための支援策
6. おわりに

1) 同志社大学社会学部嘱託講師

2) 同志社大学社会学部教授

\*2022年9月28日受付，2022年9月29日掲載決定

## 1. はじめに

子供にとって親や教師は、身の周りの社会につながる数少ない入口であり、その言動を見聞きして、自分が生きていく社会のいわゆる「ふつう」を学んでいく。高校等への進学率が2021年度には98.9%（文部科学省，2021 b）であることを考え合わせると、子供は高校までは、周りの「ふつう」に合わせて大きな選択の余地なく進学していると言える。しかし、高校を卒業する頃になると、子供は社会に出ることを見据えて、将来展望が求められるようになる。その際、ベースとなるのが自分の「やりたいこと」である。

文部科学省（2021 a）によると、直近の大学（学部）進学率は過去最高の54.9%であり、過半数を占めている。しかしやりたいことが分からないまま進学し、いつまでたってもやりたいことを見つけられない学生は珍しくない。であるならば、その差は何に起因するのか。やりたいことを見出す力はいかに培われるのだろうか。

この点について本稿では、大学入学までの生育環境を作り出す実家の「暮らしぶり」と大学時代の過ごし方に着目した。特に、暮らしぶりが「キャリア構想」や「キャリア実現」に与える影響を考察する。なお本稿では、キャリア構想を「キャリアのビジョン（視野を広く持ち、将来の仕事に関連してやりたいこと）を自由に思い描くこと」と定義する。またキャリア実現を「キャリア構想を実現・実践すること」と定義する。つまり、学生が視野を広く持ち、将来の仕事に関連してやりたいことを自由に思い描き、それを実現・実践していけるかどうか、に、大学入学までの暮らしぶりや大学時代の過ごし方が大きくかかわってくると想定している。

## 2. 問題の背景

### 2-1. 教育現場へのキャリア教育導入の経緯

強固な日本型雇用慣行が存在した時代は、労働者はいわば「会社任せ」のキャリア形成に身を委ねることができた。しかしその日本型雇用慣行が崩壊しつつある昨今、労働者自らが社会経済情勢に合わせた柔軟なキャリア形成を図らなければならなくなった。それに伴い、教育現場でもキャリア教育の必要性が叫ばれるようになった。

中央教育審議会（2011）によると、キャリア教育とは「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」であり、キャリア教育を通して中心的に育成すべきなのは「基礎的・汎用的能力」とであるとされている。

しかし、当事者である教育現場では、キャリアの理解に関して混乱が見られていた。それは文部科学省と厚生労働省のキャリアに対する捉え方の違いにも表れている。

文部科学省は、キャリアを職業だけでなく、「人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ね」（中央教育審議会、2011）とし、人間の一生涯に関わる生き方や働き方（＝Life Career）と捉えているのに対し、厚生労働省は「一般に『経歴』、『経験』、『発展』さらには、『関連した職務の連鎖』等と表現され、時間的持続性ないし継続性を持った概念として捉えられる」（厚生労働省、2002）とし、どちらかというキャリアを職業（＝Work Career）の意味合いの強いものと定義した。

キャリアの定義が複数あるために、教育現場は混乱し、「職業調べや職場体験学習、インターンシップ等をさせることこそがキャリア教育であるという誤解や、『夢』ややりたい職業を見つけることが目標であるかのように働きかけがなされている」（若松他、2019）という結果を招いている。

児美川（2016）も、高校までのキャリア教育の主流は「子供たちが、学校や大学・専門学校の卒業後には働き始めるということを前提として、そのための知識や能力、意欲を身につけさせるとともに、自ら進路選択ができるよう支援すること」に属する取り組みであり、「すべては夢を持たせること、夢を追わせることに向かっている」とし、林（2020）も同様の指摘をしている。それゆえ高校までのキャリア教育は、現存する職業を夢と定めて目指す「夢追い型」になったと考えられる。

## 2-2. 大学におけるキャリア教育の現状

大学におけるキャリア教育については、2010年に大学設置基準が改正され、2011年4月から施行されたことに伴い、内容については規定されないまま、キャリアガイダンスを含めて正課教育として大きく広がっていった。

しかし、大学卒業後の進路に関しては依然として問題も残っており、3年以内に約3割の新規大卒新入社員が離職するという状況が20年以上続いている（厚生労働省、2021）。雇用の場において、新入社員の「こんなはずではなかった」というリアリティショックは減っておらず、ミスマッチは解消されないままである。

溝上（2004）は、現代の青年には「自分のやりたいことや将来の目標を出発点として、大人社会に参入しようとするダイナミクス（インサイド・アウト）の傾向」があるとしている。これは、高校までの従来のキャリア教育を反映した青年像と一致する。

一方で大学でも、新規大卒者の7割強が雇用者として企業に就職する（厚生労働省、2022）ため、卒業後はより安定した企業に就職させるという就職支援に注力しているのが現状である。実際にキャリア教育の一環として、学生のやりたいことをもとに、企業

のインターンシップに行かせる大学も多い。

つまり大学においては、そもそも学生が自分でやりたいことを見つけられていなければ、キャリア教育はうまく機能しないということになる。にもかかわらず、溝上(2018)によると、「自分の将来についての見通し(将来こういう風でありたい)を持たない大学3年生は35.7%」もいるという。その結果がミスマッチによる早期離職をもたらしている可能性は否定できない。

### 2-3. 個人の出身階層に関わる社会的背景要因による格差

OECD の PISA という学力調査によると、「日本の生徒の学力と問題解決能力は平均的に卓越している」(松岡, 2019) という。確かに、高校まではほぼ全員が学び、短大・専門学校を含む高等教育機関にも8割を超える生徒が進学しており、教育機会において深刻な格差はないように見える。

しかし松岡(2019)によると、父親の学歴による子供の学歴の格差、子供の貧困による教育格差、生まれた地域による学歴の格差などは、拡大する兆しすらあるという。『『生まれ』によって学力や大学進学期待など長期間の経験蓄積に基づく格差があるという『現状』』(松岡, 2019) が認められる。

また、石田他(2017)は、個人の出身階層に関わる社会的背景(両親の最終教育年数や父職、15歳時の資産や暮らし向きなど)の総合的な影響力を推計し、その後の地位達成との相関を検証した結果、「生まれにより決まる人々のさまざまな社会的背景要因は、学歴達成に大きく影響しており、社会的背景が有利なグループと不利なグループが存在する」としている。しかし「社会的背景が不利であったとしても、高等教育レベルの学歴を獲得すれば、職業的地位は向上する。しかし、この効果は、社会的背景が有利なグループとほぼ同程度であるので、もともとあった格差は温存されたまま『格差が連鎖・継続』するパターンが見られる」という。

加えて、大学教育が問題解決能力やコミュニケーション能力の自己評価に与える影響を見たところ、「15歳時の経済的・文化的資源の多寡が問題解決能力やコミュニケーション能力の自己評価に大きく影響を与えている」ことから、「出身家庭の資源がこれらの能力に及ぼす影響が、大学教育よりも大きな可能性」を示唆している。

このように個人の出身階層に関わる社会的背景要因が、学歴達成やその後の地位達成のみならず、問題解決能力やコミュニケーション能力にも影響を与えるのであれば、数多ある選択肢から自分のやりたいことを見出し、将来を展望することに関しても影響を与える可能性があり得るのではないか。

とりわけ経済的に余裕があれば、国内のみならず海外旅行や長期滞在など、様々な経験を幼い頃から積むことができる。特色のある教育を行う私立校に通うこともできるだ

ろう。塾など、公教育以外の学びの支援も受けられる。それらを通じてより多くの人と接し、豊かな知識や良い刺激を得る機会に恵まれる。そのことが単に高学歴や安定した就職口につながるだけでなく、自らを客観視する視点や、社会を見極める視点を持つことにもつながると考える。

そもそもキャリアを考える際には、夢などの「やりたいこと（希望）」以外にも、仕事に関連した、自分が人より得意とする「やれること（能力）」や、周りからの期待や社会から求められる役割としての「やるべきこと（要請）」から検討することもできるはずである。このような多面的なアプローチは本来キャリア教育の目指すべきところではあるが、それを受けとめる生徒・学生側の土台（自らを客観視する視点や社会を見極める視点など）に社会的背景要因による格差が生じているとするならば、先に触れた自分のやりたいことを見出すこと、将来を展望することに加えて、それを促すキャリア教育の効果にも格差が生じることが想定されよう。

このようなキャリア構想における社会的背景要因による格差を考慮せず、現存の職業の中からやりたいことを探させるだけの高校までのキャリア教育や、やりたいことが既にあることを前提に、それを就職につなげることに腐心する大学のキャリア教育には、恐らく限界がある。以上の問題意識から、現行のキャリア教育を受けたとしてもやりたいことが見つけられない原因の一つとして、特に大学入学までの生育環境を作り出す実家の「暮らしぶり」に注目して分析する。

### 3. 検証仮説

変化の激しい現代において、自らキャリアを自由に構想し、それを実現・実践していくためには、自分が蓄積した経験を振り返りながら、多様な視点で自己分析し、現存する職業だけでなく、社会の中で自分のやりたいことの方角性を柔軟に思考する必要がある。その際、土台となるべき経験の蓄積という点において、生まれ育った家庭に経済的な余裕があったかどうかで、自ずとその豊かさに差が生じることが考えられる。そのような生育過程で触れることのできた環境の多様性や深さこそが、キャリア構想やキャリア実現の源泉になると想定した。

生まれ育った家庭に経済的な余裕があったかどうかを厳密に測定するのは困難であり、先行研究でも様々な代理変数が用いられている。また、経済的な余裕だけが子供にやりたいことを思い描く土台となるべき豊かな経験の蓄積をもたらすわけではないことも事実である。そのような限界を踏まえた上で、本稿では「暮らしぶり」という形で大学入学までの実家の経済状況を主観的にどう感じていたかを尋ね、生育環境を測る指標とした。

子供は生育環境を選ぶことができず、それが子供の学歴や収入などに格差を生み出していることは先行研究より明らかであるが、やりたいことを自由に構想できるかどうかともまた、どのような環境で育ち、どのような教育を受けてきたかに左右され、そこには本人に帰責できない格差が存在する。大学入学時のキャリア構想やキャリア実現には暮らしぶりが影響を与えている、というのが第一の仮説である。

次に、大学4年間を過ごすことで、入学当初のキャリア構想やキャリア実現における暮らしぶりの影響がどう変化するかを検証したい。仮に経済的に余裕がなく、やりたいことが見つけられないまま進学したのであれば、その状況を一旦リセットするべく視野を広げる必要がある。そのためには大学時代を通じて自分とは異質な人と出会ったり、本を読んだり、授業を受けたり、様々な経験をしたりといったことを、ただ漫然と行うのではなく、意識して取り組む必要がある。そのような大学時代の過ごし方次第で、能動的にやりたいことを思い描く力を培うことができる、というのが第二の仮説である。

## 4. 実証分析

### 4-1. 調査概要

仮説を検証するために Web 調査を実施した。調査対象者は22～29歳の4年制大学を卒業もしくは大学院博士前期課程を修了後3年以内で、労働所得のある人とした。

卒業・修了後3年以内としたのは、主に大学時代までのことを尋ねるため、卒業・修了から時間が経過しすぎると正確な回答が得られないこと、3年以内に約3割の新規大卒新入社員が離職するという現状があり、その3年間でキャリア構想やキャリア実現に変化が見られる可能性があることを考慮したためである。

労働所得のある人としたのは、キャリア構想やキャリア実現が、社会でどう働いていきたいのか、生きていきたいのかについて考え、実践していくことに他ならず、職業、つまり働くことを抜きには考えられないためである。

この調査は㈱マクロミルに委託し、2020年9月23日（水）から2020年9月24日（木）にかけて実施し、3,090人から回答を得た。性別の内訳は、男女半数ずつとなっている。

### 4-2. 被説明変数の設定

①大学入学時、②初職就職時の2時点について、キャリア構想とキャリア実現に関する回答をダミー変数化し、被説明変数とした。

まず①大学入学時については、キャリア構想として「将来の仕事に関連してやりたいことはあったか（入学時やりたいことダミー）」、キャリア実現として「将来の仕事につ

ながる可能性のあることで、自分が他人よりも得意なものはあったか（入学時得意ありダミー）」「進学先（大学・学部）が決まった時、その大学・学部にな得していたか（入学大学納得ダミー）」について、それぞれダミー変数を設定した。

次に②初職就職時については、キャリア構想として「将来の仕事に関連してやりたいことがあったか（就職時やりたいことダミー）」「大学時代に将来の仕事に関連してやりたいことに変化はあったか（やりたいこと変化ダミー）」について、それぞれダミー変数を設定した。またキャリア実現として「初職は、就職した時のやりたいことと関係があったか（初職やりたいこと関係ダミー）」「将来の仕事につながる可能性のあることで、自分が他人より得意なことはあったか（就職時得意ありダミー）」「初職内定時、その就職先に納得していたか（初職納得ダミー）」について、それぞれダミー変数を設定した。なお、やりたいこと変化ダミーについてはキャリア実現にもかかわるため、分析や考察ではキャリア実現の被説明変数としても扱っている。

各変数の内訳は表1を、記述統計量は表2を参照されたい。

#### 4.3. 説明変数の設定

自由なキャリア構想とキャリア実現に何が影響を与えるのかを明らかにするため、上記の2時点について、それぞれ以下の説明変数を設定した。

①大学入学時においては、それまでの親、地域、学校などの生育環境による影響が大きいと考えた。そこで生育環境の代理変数として「入学時暮らしぶりダミー」を設定し、重点的にこの変数に着目して分析していくことにする。

親からの影響については「父親高学歴ダミー」「母親高学歴ダミー」「母親専業主婦ダミー」「中高旅行ダミー」「特別な経験ダミー」を設定した。両親の高学歴ダミーは、先行研究により両親の学歴が子供の学歴に影響するとされており（松岡，2019）、この時点のキャリア構想やキャリア実現にも影響するのかを確認したい。母親専業主婦ダミーは、母親が専業主婦として常に家にいて、先回りして子供にあれこれ指図していることが考えられ、その影響があるかもしれない。また中高旅行ダミーは、中高時代に学校行事を含め、宿泊を伴う旅行をするという日常から離れた特別な経験が影響を与えている可能性がある。特別な経験ダミーは、自分の大きな病気・ケガや家族や友人との死別・離別などの経験<sup>(1)</sup>そのものに加えて、それらに対して親とともにどう向き合ったのが、将来の展望に大きく影響することを想定している。

地域からの影響については「実家大都市ダミー」を、学校からの影響については「公立小中高ダミー」「中学活動」「高校活動」「高校キャリア教育」を設定した。実家大都市ダミーは、暮らしぶりに余裕のない家庭出身の子供にとって、企業や大学が多く存在する大都市に住んでいるかどうかで進学や就職が左右されるのを見たい。公立小中高

ダミーは、生徒の家庭環境が同質的で、特色ある教育がなされていることが多い私立校との違いを見るために設定した。また中学活動、高校活動は、授業や部活動、学校行事を含めた諸活動<sup>(2)</sup>に力を入れていた数（合成変数）であるが、それらの活動に積極的に取り組んでいることが影響を与える可能性がある。高校キャリア教育は、高校でキャリア教育をどの程度経験しているか（合成変数）であり、高校で受けたキャリア教育の項目<sup>(3)</sup>数の違いが影響を与えるかどうかを確認したい。

最後に、本人属性による影響をコントロールするため、「年齢」「男性ダミー」「長子ダミー」「一人っ子ダミー」を設定した。

次いで②初職就職時については、さらに「院修了ダミー」「国公立大学ダミー」「文系ダミー」「大学活動」「大学旅行ダミー」「大学キャリア教育」「大学時代にしたこと」「接触回数ダミー」「一人暮らしダミー」「奨学金ダミー」を説明変数として加えた。院修了ダミーは、学部卒業後に博士前期課程まで進学し、修了したことで、その後の進路が異なることが考えられる。国公立大学ダミーは、受験科目の多い大学入試センター試験を目指して準備すること<sup>(4)</sup>、文系ダミーは、理系に比べて就職の際の職種の選択肢が幅広くなることの影響をそれぞれ確認したい。大学活動は、授業や学校行事を含めた諸活動<sup>(5)</sup>に力を入れた数（合成変数）であり、それらの活動に積極的に取り組むことが影響を与える可能性がある。大学旅行ダミーも、学校行事を含めて宿泊を伴う旅行をするという、日常から離れた特別な経験から刺激を得ることがあるかもしれない。また大学時代にしたこと<sup>(6)</sup>（合成変数）は、様々な方面から社会の情報を入手する頻度を踏まえて、キャリア構想やキャリア実現に与える影響を見たい。接触回数ダミー、一人暮らしダミーも、人からの情報収集という点で同様の意味合いを持ち、大学キャリア教育<sup>(7)</sup>（合成変数）、奨学金ダミーは、ともにそれらを通じて視野を広げる効果を持つことを想定している。

推定は、大学入学時までの暮らしぶりに基づいて「かなり（少し）余裕があった（余裕あり層）」「ふつう（ふつう層）」「あまり（全く）余裕がなかった（余裕なし層）」の三つの層にサンプルを分割し、全サンプルを含めて4グループにおいて二項ロジスティック回帰分析を行った。

各変数の内訳は表1を、全サンプルと暮らしぶり別の記述統計量については表2を参照されたい。



表1 変数の内訳

変数名		内訳
被説明変数 Y	①大学入学時	
	入学時やりたいことダミー	大学入学時、将来の仕事に関連してやりたいことが「あった」=1、「なかった」=0。
	入学時得意ありダミー	大学入学時、将来の仕事につながる可能性があることで、自分が他人よりも得意なことが「あった」=1、「なかった」=0。
	入学大学納得ダミー	進学先（大学・学部）に「かなり納得していた」「少し納得していた」=1、それ以外=0。
	②初職就職時	
	就職時やりたいことダミー	初職就職時、将来の仕事に関連して、やりたいことがあった=1、やりたいことがなかった=0。
	やりたいこと変化ダミー	大学時代に将来の仕事に関連してやりたいことに変化あり=1、変化なし=0。
	初職やりたいこと関係ダミー	初職は、就職した時のやりたいことと「かなり関係があった」「少し関係があった」=1、「どちらともいえない」「あまり関係がなかった」「全く関係がなかった」=0。「やりたいことがなかった」と答えたサンプル除く。
	就職時得意ありダミー	初職就職時、将来の仕事につながる可能性があることで、自分が他人よりも得意なことが「あった」=1、「なかった」=0。
	初職納得ダミー	初職内定時、就職先に「かなり納得していた」「少し納得していた」=1、「どちらともいえない」「あまり納得していなかった」「全く納得していなかった」=0。
説明変数 X	入学時暮らしぶりダミー	大学入学時の実家の暮らしぶりが「かなり余裕があった」「少し余裕があった」=1、「ふつう」「あまり余裕がなかった」「全く余裕がなかった」=0。
	父親高学歴ダミー	父最終学歴が「大学・大学院」=1、それ以外=0。「わからない／あてはまるものがない」と答えたサンプル除く。
	母親高学歴ダミー	母最終学歴が「大学・大学院」=1、それ以外=0。「わからない／あてはまるものがない」と答えたサンプル除く。
	母親専業主婦ダミー	高校（高専）卒業まで母親が「ずっと働いていなかった（専業主夫・専業主婦を含む）」=1、それ以外=0。「わからない／いない」と答えたサンプル除く。
	中高旅行ダミー	中高時代に「宿泊を伴う国内旅行」「宿泊を伴う海外旅行」の経験が両方ある=1、それ以外=0。
	特別な経験ダミー	高校（高専）を卒業するまで、将来の展望に影響を与えるような経験がある=1、ない=0。
	実家大都市ダミー	大学入学時、実家の所在地が東京都・神奈川県・愛知県・大阪府=1、それ以外=0。「実家はない」と答えたサンプル除く。
	公立小中高ダミー	高校（高専）まですべて公立学校を卒業=1、それ以外=0。
	中学活動	中学時代に「かなり力を入れた」「少し力を入れた」と答えた活動の数。（合成変数 0～7）
	高校活動	高校（高専）時代に「かなり力を入れた」「少し力を入れた」と答えた活動の数。（合成変数 0～8）
	高校キャリア教育	高校（高専）時代にキャリア教育を経験した数。（合成変数 0～6）
	年齢	調査時点の満年齢。
	男性ダミー	「男性」=1、「女性」=0。
	長子ダミー	「兄」「姉」がおらず「弟」か「妹」が一人でもいる長子=1、それ以外=0。「兄」「姉」「弟」「妹」をすべて0（一人っ子）と回答したサンプル除く。
	一人っ子ダミー	一人っ子=1、それ以外=0。
	院修了ダミー	大学院（博士前期課程）修了=1、それ以外=0。
	国公立大学ダミー	「国立」「公立」=1、それ以外=0。「行っていない／卒業していない」と答えたサンプル除く。
	文系ダミー	出身学部が「文系」=1、「理系」=0。
	大学活動	大学時代に「かなり力を入れた」「少し力を入れた」と答えた活動の数。（合成変数 0～8）
	大学旅行ダミー	大学時代に「宿泊を伴う国内旅行」「宿泊を伴う海外旅行」の経験が両方ある=1、それ以外=0。
	大学キャリア教育	大学時代にキャリア教育を経験した数。（合成変数 0～7）
	大学時代にしたこと	大学時代に「ほぼ毎日」「週に2～6回程度」「週に1回程度」行うと答えた活動の数。（合成変数 0～9）
	接触回数ダミー	大学時代に家族や親族以外で、1日で接する人が10人以上=1、それ以外=0。
	一人暮らしダミー	大学時代の居住形態が「下宿（一人暮らし）」=1、それ以外=0。「その他」と答えたサンプル除く。
	奨学金ダミー	大学時代に奨学金を利用した=1、利用しなかった=0。

表 2 記述統計量

変数名		全サンプル			大学入学時の暮らしぶり								
					余裕あり			ふつう			余裕なし		
		Obs	Mean	S.D.	Obs	Mean	S.D.	Obs	Mean	S.D.	Obs	Mean	S.D.
被説明変数 Y	①大学入学時												
	入学時やりたいことダミー	3090	0.433	0.496	1109	0.500	0.500	1369	0.392	0.488	612	0.402	0.491
	入学時得意ありダミー	3090	0.328	0.469	1109	0.443	0.497	1369	0.253	0.435	612	0.284	0.451
	入学大学納得ダミー	3090	0.684	0.465	1109	0.793	0.406	1369	0.617	0.486	612	0.637	0.481
	②初職就職時												
	就職時やりたいことダミー	3090	0.548	0.498	1109	0.573	0.495	1369	0.530	0.499	612	0.544	0.498
	やりたいこと変化ダミー	3090	0.726	0.446	1109	0.771	0.420	1369	0.693	0.461	612	0.717	0.451
	初職やりたいこと関係ダミー	2733	0.536	0.499	1023	0.614	0.487	1196	0.477	0.500	514	0.521	0.500
	就職時得意ありダミー	3090	0.356	0.479	1109	0.472	0.499	1369	0.294	0.456	612	0.288	0.453
	初職納得ダミー	3090	0.629	0.483	1109	0.731	0.443	1369	0.567	0.496	612	0.583	0.493
説明変数 X	入学時暮らしぶりダミー	3090	0.359	0.480									
	父親高学歴ダミー	2821	0.584	0.493	1064	0.66	0.473	1225	0.58	0.494	532	0.44	0.497
	母親高学歴ダミー	2873	0.294	0.456	1073	0.36	0.481	1241	0.28	0.450	559	0.19	0.392
	母親専業主婦ダミー	2895	0.197	0.397	1073	0.23	0.420	1270	0.19	0.389	552	0.16	0.366
	中高旅行ダミー	3090	0.182	0.386	1109	0.27	0.444	1369	0.15	0.356	612	0.10	0.298
	特別な経験ダミー	3090	0.260	0.439	1109	0.27	0.442	1369	0.20	0.399	612	0.39	0.488
	実家大都市ダミー	3090	0.388	0.487	1109	0.45	0.497	1369	0.36	0.481	612	0.33	0.472
	公立小中高ダミー	3090	0.602	0.490	1109	0.53	0.499	1369	0.63	0.483	612	0.66	0.474
	中学活動	3090	2.944	1.695	1109	3.36	1.695	1369	2.79	1.691	612	2.53	1.542
	高校活動	3090	2.777	1.773	1109	3.27	1.853	1369	2.59	1.706	612	2.30	1.552
	高校キャリア教育	3090	4.564	1.831	1109	4.69	1.773	1369	4.51	1.879	612	4.46	1.815
	年齢	3090	26.04	2.086	1109	25.99	2.047	1369	25.99	2.111	612	26.24	2.092
	男性ダミー	3090	0.500	0.500	1109	0.49	0.500	1369	0.50	0.500	612	0.51	0.500
	長子ダミー	3090	0.414	0.493	1109	0.39	0.488	1369	0.43	0.496	612	0.42	0.494
	一人っ子ダミー	3090	0.165	0.371	1109	0.17	0.371	1369	0.16	0.369	612	0.17	0.377
	院修了ダミー	3090	0.080	0.272	1109	0.09	0.283	1369	0.07	0.253	612	0.09	0.291
	国公立大学ダミー	3090	0.274	0.446	1109	0.28	0.447	1369	0.26	0.440	612	0.30	0.457
	文系ダミー	3090	0.696	0.460	1109	0.72	0.450	1369	0.70	0.459	612	0.66	0.476
	大学活動	3090	3.350	1.767	1109	3.73	1.777	1369	3.20	1.750	612	2.98	1.657
	大学旅行ダミー	3090	0.371	0.483	1109	0.47	0.499	1369	0.34	0.473	612	0.26	0.441
	大学キャリア教育	3090	5.701	1.992	1109	5.84	1.922	1369	5.63	2.031	612	5.59	2.015
	大学時代にしたこと	3090	5.246	2.257	1109	5.54	2.136	1369	5.11	2.293	612	5.02	2.337
	接触回数ダミー	3090	0.303	0.460	1109	0.36	0.479	1369	0.27	0.445	612	0.28	0.448
	一人暮らしダミー	3090	0.336	0.472	1109	0.33	0.469	1369	0.33	0.471	612	0.36	0.481
	奨学金ダミー	3090	0.444	0.497	1109	0.32	0.468	1369	0.43	0.495	612	0.69	0.464

注) 最小値は年齢のみ 22 で、それ以外は全て 0。最大値は高校キャリア教育が 6、中学活動と大学キャリア教育が 7、高校活動と大学活動が 8、大学時代にしたことが 9、年齢が 29、それ以外は全て 1。

#### 4-4. 推定結果

##### 4-4-(a). 大学入学時（表3）

まず全サンプルの結果から見ていきたい。入学時暮らしぶりダミーが、入学時やりたいことダミー、入学時得意ありダミー、入学大学納得ダミーという全ての被説明変数に強く正の影響を与えていた。つまり、暮らしぶりに余裕があるかどうかで、キャリア構想やキャリア実現に格差が生じていることが分かる。

また、中学活動、高校活動が将来のビジョンを描くキャリア構想に正の影響を与えていることも分かる。生徒が中学活動、高校活動に存分に力を入れられるような環境整備が求められるだろう。

次に、暮らしぶり別の分析について述べたい。

余裕あり層は、他の二つの層に比べて、高校キャリア教育が入学時やりたいことダミーと入学時得意ありダミーに強く正の影響を与えている。これはこの層が、幼い頃から様々な経験をできる恵まれた環境にあり、考える土台があることから、高校でのキャリア教育をうまく生かすことができていると言えるのではないか。

また、ふつう層では高校活動がいずれの被説明変数にも強く正の影響を与えている。高校時代の活動が大学入学時点のキャリア構想にも、キャリア実現にも大きく寄与していることがうかがえる。

男性ダミーは、入学時得意ありダミーに正の、入学大学納得ダミーに負の影響を与えている。男性は女性よりもキャリア実現の場面で自己肯定感が高く、「自分はもっとできるのに」という思いが強い可能性がある。

余裕なし層は、他の二つの層に比べ、明らかに有意な影響を与える説明変数が少なかった。中学活動も含めて、活動に力を入れるゆとりがなかったのではないか。それでも高校活動はいずれの被説明変数にも正の影響を与えており、ふつう層とともに高校時代の活動を充実させることが、キャリア構想やキャリア実現には重要であることが確認できた。

一つ特徴的なのは、余裕あり層において、母親専業主婦ダミーが入学時やりたいことダミーに対して強く負の影響を与えていることである。これは、専業主婦で時間に余裕のある母親から「ああしなさい」「こうしなさい」と先回りして指示されることで、子供は自分のキャリアを自由に思い描くことができなくなってしまうという、皮肉な解釈もできるのではないか。

表3 大学入学時

	入学時やりたいたいことダミー				入学時得意ありダミー				入学大学納得ダミー			
	全サンプル	余裕あり	ふつつ	余裕なし	全サンプル	余裕あり	ふつつ	余裕なし	全サンプル	余裕あり	ふつつ	余裕なし
入学時	0.226***				0.591***				0.587***			
暮らしぶり	1.253				1.805				1.798			
父親高学歴	0.017	0.160	-0.068	0.124	-0.027	-0.068	0.033	0.010	0.072	-0.119	0.291**	-0.157
母親専業主婦	1.017	1.174	0.934	1.132	0.973	0.935	1.034	1.010	1.074	0.888	1.338	0.855
	-0.158	-0.435***	0.035	0.121	-0.108	-0.306	-0.054	0.401	-0.055	0.177	-0.115	-0.221
中高旅行	0.853	0.647	1.036	1.128	0.898	0.737	0.947	1.494	0.947	1.194	0.891	0.802
	0.033	0.068	-0.002	-0.039	0.232**	0.231	0.241	0.311	0.209	0.551***	0.101	0.023
特別な経験	1.034	1.070	0.998	0.962	1.261	1.260	1.272	1.364	1.232	1.735	1.107	1.024
	0.696***	1.070***	0.494***	0.485**	0.717***	0.838***	0.752***	0.398	0.323***	0.211	0.324**	0.238
実家大都市	2.006	2.914	1.639	1.624	2.049	2.313	2.120	1.489	1.382	1.235	1.383	1.269
	-0.074	-0.257	0.065	-0.127	0.058	0.071	-0.075	0.253	0.090	-0.121	0.069	0.496**
公立小中高	0.928	0.773	1.067	0.881	1.060	1.074	0.928	1.288	1.095	0.886	1.072	1.642
	-0.014	-0.250	0.080	0.120	0.195**	-0.005	0.402***	0.096	0.113	0.149	0.178	-0.207
中学活動	0.986	0.779	1.084	1.128	1.215	0.995	1.495	1.100	1.119	1.161	1.194	0.813
	0.085***	0.144***	0.044	0.076	0.091***	0.129**	0.063	0.097	0.043	0.090	-0.010	0.129
高校活動	1.089	1.154	1.045	1.079	1.095	1.138	1.065	1.102	1.043	1.095	0.990	1.138
	0.189***	0.115**	0.223***	0.259***	0.189***	0.121**	0.228***	0.245***	0.156***	0.125**	0.166***	0.180**
高校キャリア教育	1.208	1.121	1.250	1.296	1.208	1.129	1.256	1.278	1.169	1.133	1.180	1.197
	0.056**	0.174***	0.004	-0.038	0.167***	0.250***	0.092**	0.169**	-0.033	0.060	-0.083**	-0.045
男性	1.058	1.190	1.004	0.963	1.182	1.284	1.096	1.184	0.968	1.062	0.920	0.956
	-0.103	0.052	-0.212	-0.258	0.377***	0.504***	0.385***	0.063	-0.213**	0.058	-0.336***	-0.311
長子	0.903	1.053	0.809	0.773	1.458	1.655	1.470	1.065	0.808	1.060	0.715	0.733
	0.317***	0.449***	0.259	0.400	0.174	0.361**	0.032	0.129	0.003	0.227	-0.056	-0.116
N	1.373	1.567	1.296	1.491	1.190	1.435	1.032	1.138	1.003	1.255	0.946	0.890
	3090	1109	1369	612	3090	1109	1369	612	3090	1109	1369	612
-2 対数尤度	3078.8	1264.1	1496.5	630.6	3078.8	1230.3	1252.8	562.3	3090.9	1006.0	1463.6	574.9
Cox-Snell R <sup>2</sup> 乗	0.135	0.146	0.064	0.072	0.135	0.167	0.091	0.085	0.053	0.039	0.046	0.06

注：\*\*\*p<0.01、\*\*p<0.05。上段はβ、下段はExp(β)。全く有意な結果が得られなかった説明変数と定数は省略。

#### 4-4-(b). 初職就職時（表4）

全サンプルの結果については、まず就職時やりたいことダミーに対する入学時暮らしぶりダミーの影響が消えている。つまり初職就職時には、キャリア構想が暮らしぶりの影響から脱して、自分で将来を考えられるようになっていえる。ただし、他の被説明変数には依然として暮らしぶりが影響を与えていることから、キャリア実現に関しては、まだその影響が残っていることが分かる。

一方、接触回数ダミーが、就職時やりたいことダミーに強く正の影響を与えている。どのような接触であったかまでは本稿では特定できていないが、少なくとも数多くの人と日々接すること、かかわることは、やりたいことを見つけるのに有用であるという仮説が証明されたと言えるだろう。

また、大学活動、大学時代にしたこと、奨学金ダミーが、就職時やりたいことダミー以外のキャリア実現に関する被説明変数に正の影響を与えている。授業や部活動、学校行事を含めた大学での活動に力を入れて取り組むこと、ニュースや本などで社会の情報を沢山入手すること、そして奨学金を利用してアルバイトに追われたり、やりたいことを我慢したりすることなく積極的に大学生活に臨むことが、キャリア実現に効果があることが分かった。

次に暮らしぶり別の分析について見ていきたい。

就職時やりたいことダミーに対して、余裕あり層のみ接触回数ダミーが正の影響を与えている。これは大学入学時までの暮らしぶりに余裕があり、様々な経験を積むこともできて、考える土台が既にある層にのみ、大学時代に沢山のひとと接触するという経験がキャリア構想を後押ししていると考えられる。単に接触するだけでなく、そこから何を引き出し、どう学べるかという点で違いが生じるのではないか。

やりたいこと変化ダミーに対しては、ふつう層のみ特別な経験ダミー、大学時代にしたことが強く正の影響を与えている。他の二つの層では全く影響を与えていないことを考え合わせると、ふつう層は他の二つの層に比べて、特別な経験をしているほど、また大学時代に社会の情報を積極的に取り入れるほど、自分の特別な経験と社会情勢を結び付けて考えた末に、やりたいことを変化させているのではないか。

文系ダミーは、余裕あり層とふつう層で初職やりたいこと関係ダミーに負の影響を与えている。文系出身者は就職先となる職種が幅広い。理系出身者に比べて大学入学時に将来やりたいことまで考えて学部を選んでいる例は少ないと考えられ、いざ就職となった時にやりたいことに直接関係がある職種に就けていない、もしくは先々の転職などを見越してやりたいことにこだわらず、とりあえず就職している可能性がある。

余裕なし層は他の層に比べて有意な結果が得られている説明変数が少ないが、この層では国公立大学ダミー、奨学金ダミーと大学時代にしたことが初職納得ダミーに正の影

表 4-1 初職就職時

	就職時やりたいことダミー			やりたいこと変化ダミー			初職やりたいこと関係ダミー		
	全サンプル	余裕あり	ふつう	余裕なし	余裕あり	ふつう	余裕なし	余裕あり	ふつう
入学時 暮らしぶり	0.021 1.021	余裕あり	余裕なし	余裕なし	余裕あり	余裕なし	余裕なし	余裕あり	余裕なし
父親高学歴	0.153 1.165	0.169 1.184	0.168 1.183	0.154 1.167	-0.060 0.942	-0.110 0.896	-0.008 0.992	0.147 1.159	0.424*** 1.528
中高旅行	0.087 0.115	0.115 0.122	0.215 1.239	-0.341 0.711	0.006 1.006	-0.464** 0.629	0.308 1.361	0.147 1.159	0.424*** 1.528
特別な経験	-0.122 0.885	-0.265 0.767	-0.182 0.834	0.003 1.003	0.435*** 1.545	0.320 1.376	0.620*** 1.858	0.147 1.159	0.424*** 1.528
実家大都市	0.054 1.055	0.148 1.159	0.029 1.029	-0.233 0.792	0.214** 1.239	0.376 1.382	0.015 1.016	0.147 1.159	0.424*** 1.528
中学活動	0.056 0.091	0.091 0.099	0.009 1.009	0.088 1.092	-0.020 0.980	0.039 1.040	-0.041 0.960	0.147 1.159	0.424*** 1.528
高校活動	0.032 1.032	0.122** 1.130	0.016 1.016	-0.092 0.912	0.081** 1.084	0.099 1.104	0.073 1.076	0.147 1.159	0.424*** 1.528
高校キャリア教育	-0.019 0.981	-0.047 0.954	0.012 1.012	-0.078 0.925	0.065** 1.067	0.110** 1.116	0.016 1.017	0.147 1.159	0.424*** 1.528
年齢	0.081 1.081	0.038 0.938	-0.010 1.010	-0.012 0.912	-0.014 1.014	-0.103*** 1.103	0.007 1.007	0.147 1.159	0.424*** 1.528
男性	0.080 1.080	0.963 0.963	0.990 0.990	0.988 0.988	0.986 0.986	0.902 0.902	1.007 1.007	0.147 1.159	0.424*** 1.528
長子	-0.067 0.935	0.056 1.058	-0.186 0.830	0.035 1.035	-0.003 0.997	-0.212 0.809	0.149 1.160	0.147 1.159	0.424*** 1.528
一人っ子	-0.056 0.946	-0.168 0.846	0.044 1.045	-0.056 0.946	-0.274** 0.760	-0.648*** 0.523	0.042 1.043	0.147 1.159	0.424*** 1.528
院修了	0.026 1.026	-0.095 0.910	0.144 1.155	0.245 1.277	0.292 1.339	0.581 1.788	-0.046 0.955	0.147 1.159	0.424*** 1.528
国公立大学	0.141 1.152	0.110 1.116	0.161 1.175	0.167 1.182	0.082 1.085	0.326 1.386	0.006 1.006	0.147 1.159	0.424*** 1.528
文系	0.025 1.025	-0.084 0.919	0.201 1.223	-0.094 0.910	0.050 1.052	0.095 1.053	0.095 1.099	0.147 1.159	0.424*** 1.528
大学活動	0.079*** 0.980	0.005 1.005	0.104** 1.109	0.163** 1.177	0.078** 1.081	0.056 1.057	0.090 1.094	0.147 1.159	0.424*** 1.528
大学旅行	-0.020 0.980	-0.342** 0.710	0.145 1.157	0.264 1.302	0.093 1.097	0.075 1.078	0.176 1.193	0.147 1.159	0.424*** 1.528
大学時代に したこと	-0.012 0.988	-0.075** 0.928	0.016 1.016	0.038 1.038	0.072*** 1.072	0.055 1.056	0.088*** 1.092	0.147 1.159	0.424*** 1.528
接触回数	0.256*** 1.291	0.401*** 1.494	0.175 1.191	0.155 1.168	-0.067 0.935	0.014 1.015	0.051** 1.057	0.147 1.159	0.424*** 1.528
奨学金	-0.019 0.981	0.020 1.021	-0.155 0.856	-0.080 0.923	0.342*** 1.407	0.284 1.329	0.337** 1.401	0.147 1.159	0.424*** 1.528
N	3090	1109	1369	612	3090	1109	1369	1109	612
-2 対数尤度	3606.6	1338.3	1562.7	648.8	2909.3	1018.6	1317.5	1159.0	529.3
Cox-Snell R <sup>2</sup> 乗	0.027	0.059	0.032	0.051	0.054	0.075	0.063	0.104	0.14

注：\*\*\*p&lt;0.01, \*\*p&lt;0.05。上段はβ、下段はExp(β)。全く有意な結果が得られなかった説明変数と定数は省略。

表 4-2 初職就職時（続き）

	就職時得意ありダミー				初職納得ダミー			
	全サンプル	余裕あり	ふつう	余裕なし	全サンプル	余裕あり	ふつう	余裕なし
入学時	0.586***				0.449***			
暮らしぶり	1.796				1.567			
父親高学歴	0.148	0.207	0.223	-0.096	0.237**	0.304	0.305**	0.116
	1.159	1.230	1.249	0.908	1.268	1.355	1.357	1.123
母親専業主婦	-0.042	-0.454***	0.190	0.627**	0.051	-0.081	0.187	0.015
	0.959	0.635	1.209	1.873	1.052	0.922	1.206	1.015
中高旅行	0.196	0.005	0.303	0.538	0.178	0.454**	0.066	-0.046
	1.217	1.005	1.353	1.713	1.195	1.574	1.068	0.955
特別な経験	0.468***	0.725***	0.262	0.547**	-0.175	-0.063	-0.348**	-0.181
	1.597	2.066	1.299	1.729	0.840	0.939	0.706	0.835
公立小中高	0.089	0.194	0.167	-0.418	0.199**	0.368**	0.147	-0.028
	1.093	1.214	1.182	0.659	1.220	1.445	1.158	0.973
中学活動	0.052	0.100	-0.001	0.053	0.084**	0.083	0.071	0.147
	1.053	1.106	0.999	1.055	1.088	1.086	1.074	1.158
高校活動	0.070**	0.022	0.091	0.168	0.062	0.080	0.054	0.041
	1.072	1.022	1.095	1.183	1.064	1.083	1.056	1.042
高校キャリア教育	0.140***	0.170***	0.117**	0.151**	0.021	0.050	0.026	-0.059
	1.150	1.185	1.125	1.163	1.021	1.052	1.026	0.943
年齢	0.012	0.031	0.016	-0.014	-0.042**	0.000	-0.061	-0.060
	1.012	1.031	1.016	0.986	0.959	1.000	0.941	0.942
男性	0.516***	0.345**	0.706***	0.298	-0.122	0.040	-0.196	-0.235
	1.676	1.411	2.026	1.347	0.885	1.041	0.822	0.791
一人っ子	-0.192	0.053	-0.581**	0.240	0.040	0.275	-0.264	0.325
	0.825	1.055	0.559	1.272	1.041	1.317	0.768	1.384
国公立大学	0.092	0.008	0.276	-0.096	0.315***	0.306	0.215	0.536**
	1.097	1.008	1.318	0.908	1.370	1.358	1.239	1.709
文系	-0.028	-0.079	0.009	-0.182	-0.252**	-0.283	-0.297	-0.187
	0.973	0.924	1.009	0.833	0.777	0.754	0.743	0.830
大学活動	0.155***	0.135***	0.213***	0.114	0.212***	0.184***	0.255***	0.146
	1.168	1.145	1.237	1.121	1.236	1.202	1.291	1.157
大学旅行	0.268***	0.503***	0.181	0.048	0.350***	0.276	0.488***	0.309
	1.307	1.654	1.198	1.049	1.419	1.317	1.630	1.361
大学時代に したこと	0.081***	0.047	0.128***	0.052	0.107***	0.040	0.152***	0.112**
	1.084	1.049	1.136	1.053	1.113	1.041	1.165	1.119
接触回数	0.115	0.098	-0.057	0.557**	0.160	0.152	0.174	0.096
	1.122	1.103	0.945	1.745	1.173	1.164	1.190	1.101
一人暮らし	-0.079	0.057	-0.441***	0.248	-0.140	-0.317	-0.008	-0.234
	0.924	1.059	0.643	1.282	0.870	0.729	0.992	0.791
奨学金	0.579***	0.775***	0.616***	0.417	0.376***	0.360**	0.279**	0.447**
	1.785	2.171	1.852	1.518	1.456	1.434	1.321	1.563
N	3090	1109	1369	612	3090	1109	1369	612
-2 対数尤度	3100.0	1220.0	1268.2	537.7	3049.2	1067.4	1356.6	575.0
Cox-SnellR <sup>2</sup> 乗	0.158	0.181	0.15	0.135	0.13	0.091	0.158	0.133

注：\*\*\*p<0.01、\*\*p<0.05。上段はβ、下段はExp(β)。全く有意な結果が得られなかった説明変数と定数は省略。

響を与えている。授業料の安い国公立大学に行き、奨学金を利用することで経済面での負担を軽減して大学生活に力を注ぐことができ、社会の情報を多く取り入れられれば、キャリア実現に近づけることが分かった。

母親専業主婦ダミーは、就職時得意ありダミーに対し、余裕あり層では負の、余裕なし層では正の影響を与えている。大学入学時点ではこのような傾向は見られない。余裕なし層においては、自主的に専業主婦を選択している場合もあるだろうが、より多くの母親は、家族の介護や育児、または自身の心身不調等で「働けない」状態が想定される。そうであれば、相当に生活が苦しい恐れがあり、学生は大学卒業後すぐに稼げる職に就かなければならず、自分の能力についてより切実に考えるのではないだろうか。余裕あり層ではその切実さはなく、むしろあれこれ先回りする専業主婦の母親に就職さえも指図を受けて、視野を広げるために自分の得意なものを見極めるという意欲を失ってしまうのかもしれない。

総じて、余裕あり層は他の層に比べて、それまでの経験の蓄積で考える土台があるので、大学での働きかけに対してキャリア構想でもキャリア実現でも正の影響が出やすい傾向がある。余裕なし層に対しては、特にキャリア実現の場面でそれまでの経験不足を補うような支援が求められよう。

また本稿のモデルでは、大学キャリア教育は全ての被説明変数に有意な影響を与えていなかった。ただし、この説明変数は、大学時代に経験したキャリア教育の項目を合算したものに過ぎず、その内容にまでは踏み込めていないという限界がある。それを認識しつつも、現行のキャリア教育を数多く受けても、将来のやりたいことを思い描くキャリア構想にも、それを実現・実践していくキャリア実現にも影響を与えられていないということになる。その理由を考えてみたい。

そもそも大学入学時の暮らしぶりにより、キャリア構想、キャリア実現の双方に格差があった。にもかかわらず大学のキャリア教育では、やりたいことが見出されていることを前提に、それを企業への就職に結びつける就職支援に重点が置かれているとすれば、暮らしぶりの影響により、キャリア構想力が不足している学生は途方にくれるはずである。既に存在している暮らしぶりによる格差を無視して、やりたいことを就職に結びつける方策としてのキャリア教育をいくら実施しても、その手前で立ち止まっている学生のキャリア構想にも、キャリア実現にも寄与できないということを表しているのではないだろうか。



## 5. 考 察

### 5-1. 大学入学時のキャリア構想に影響を与えたもの

大学入学時には、既にキャリア構想に関して暮らしぶりにより格差があることが分かった。中でも余裕あり層は他の層に比べて、その豊かさを背景に様々な経験を可能にし、やりたいことについて思い描く機会も豊富に与えられ、自分のキャリアについて考える土台が作られた状態であると考えられる。

全サンプルの分析結果からは、授業や部活動を含めた中学活動や高校活動に力を入れることが、大学入学時のキャリア構想には有用であることが分かった。しかし暮らしぶり別の結果では、余裕なし層において有意な説明変数が顕著に少なかった。暮らしぶりの影響から、余裕なし層は中学時代も含め、学校の活動全般に力を入れるゆとりがなかったことが考えられる。したがって、この点に関する支援をどう実施するかが今後の課題になると言えよう。

### 5-2. 暮らしぶりによる格差を挽回するための支援策

初職就職時において、キャリア構想に関しては暮らしぶりの影響が消えていた。しかしキャリア実現に関しては、大学4年間を過ごしてもなお暮らしぶりの影響が色濃く残っていた。特に余裕なし層は、他の層に比べて大学入学時までの様々な経験が不足しており、自分のキャリアについて考える土台が作られていない恐れがある。大学時代にこの経験不足を補い、考える土台作りをするための支援策を考察したい。

#### 5-2-(a). 大学における諸活動に力を入れるための支援

第一の支援策は、大学時代の活動に積極的に取り組めるようにすることである。初職就職時における全サンプルの結果を見ると、大学時代に様々な活動に前向きに取り組むこと、社会の情報を積極的に入手すること、奨学金を得て金銭的に余裕ができ、授業やその他の大学生活により力を入れて取り組めるようになることが、キャリア実現に正の影響を与えることが分かっている。

第二の支援策は、人との接触頻度を上げることである。全サンプルの結果では、初職就職時にやりたいことがあることに対して、人とより多く接触することが正の影響を与えており、大学時代により多く、自分とは異質な人と接することがキャリア構想に寄与するということを示唆している。しかし暮らしぶり別に見ると、余裕あり層以外の層ではその影響が見られず、それまでの経験が豊富で、キャリア構想について考える土台のある場合においてのみ、人との接触が有効であることが分かる。

これらのことから、特に余裕あり層以外の層に対しては、大学入学までの経験の少な

さを補い、考える土台作りを支援することに通じる第一の支援策が、第二の支援策の成立要件としても求められている。

### 5-2-(b). キャリア教育による支援

本稿の分析結果では、大学のキャリア教育はキャリア構想にも、キャリア実現にも全く影響を与えていなかった。大学入学時に既に存在する暮らしぶりによる格差を放置して、やりたいことを安定した企業への就職に結びつけることに重点を置いたキャリア教育を行っているとするれば、限界があるのは否めない。既に存在する格差を解消するための支援策として、キャリア教育では何ができるだろうか。

まずは高校卒業までに、全ての生徒がキャリアを思い描けるようになることを目標にすべきである。本稿の分析では、高校キャリア教育は大学入学時にやりたいことがあることに正の影響を与えているが、それは余裕あり層にのみ顕著であった。暮らしぶりによつては、キャリアを思い描く力さえ持てない生徒も存在すると考えられる。

次に大学のキャリア教育については、暮らしぶりの影響が初職就職時まで残ってしまうキャリア実現における格差をどう挽回するのか、という問題がある。ここに今後の大学のキャリア教育が目指すべき課題を見出せないかを考察したい。

例えば現在、大学のキャリア教育の一環としてインターンシップが行われることも多いが、実際は1日など短期間のものが大半である。これは職場説明会や職場見学に近く、表面的な経験に留まってしまいがちである。偶々自分に合う企業のインターンシップに行けたとしても、それをキャリア実現の機会として有効に利用するためには、人脈等を得るためのスキルや能力を身につけることが必須条件となる。

また暮らしぶりによる経験値の格差に起因する大人社会への視野の狭さを広げるような支援も、合わせて行うことが必要だろう。本人の興味関心から出発して、そこを深掘して社会について知る機会を数多く与えることも、一つの方法として考えられよう。

また格差を挽回するためにも学生に寄り添い、自分の内的キャリアについて客観視できるように支援する必要もあるだろう。自分が経験してきた外的キャリアを棚卸し、それが今の自分の価値観や興味関心、能力などの内的キャリアにどうつながっているのかを考えることは、現在の自分観を持つことにつながるだろう。

以上のことから、大学のキャリア教育において、①アウトサイド・インのために現在の自分を取り巻く社会環境について視野を広げて十分理解し、②自分の外的キャリアを棚卸し、③それに基づく現時点での自分観を得て、④人脈を得るためのスキルや能力を習得すること、が必要であると考ええる。大学におけるキャリア教育の内容については、未だに確定的な内容は国から示されていないが、全ての学生がキャリア実現における暮らしぶりによる格差を解消し、建設的にキャリア実現を達成できるようになるためにも、上記4点について取り組むことを検討すべきではないか。

## 6. おわりに

本稿においては、暮らしぶりがキャリア構想にもキャリア実現にも強い影響があり、特にキャリア実現の場面では初職就職時まで影響が残ることが明らかになった。暮らしぶりが本人の経験値や考える機会の差となって蓄積してしまうことによるものと考えられる。しかし暮らしぶりに余裕がなくても、大学時代にメディアや SNS から社会の情報を得たり、家族や友人と話す機会を増やしたりすることで、納得して初職に就くことができることも分かった（表 4-2）。また大学入学までの経験値や考える機会の差も、考察で述べたようなキャリア教育を含めた支援を大学で受けることができれば、キャリア実現に向けてその差を補うことができるのではないか。

本稿の課題としては、本稿の調査回答者のうち、余裕なし層が 19.8% と少なかったことから、余裕なし層の現実の姿を正確に反映できていない可能性がある。今後は実際の割合に即した形での調査が必要であると考えられる。また本稿は現行の大学キャリア教育の評価を目的としていないため、その内容については踏み込めていない。今後は各大学において多様な形で行われているキャリア教育の内容について精査し、キャリア実現における格差解消に有効なキャリア教育とは何かを具体的に明らかにしていくことが求められる。

\* 本稿は、JSPS 科研費 JP16K03723 による成果の一部である。

### 注

- (1) 特別な経験は「自分自身の大きな病気・ケガ」「家族や友人との死別・離別」「いじめ・不登校などの学校における問題」「家の経済状況の大きな変化」「自然災害などの被災・被害」「その他」の 6 項目。なお、これらについては、年少であればあるほど自力で受け止めたり、解決したりすることが困難だと考えられるため、高校までの経験に限定して取り上げる。
- (2) 中学活動は「授業（宿題や課外授業などを含む）」「部活動」「学校行事（文化祭、体育祭、生徒会活動など）」「学習塾・予備校」「習い事」「ボランティア」「海外留学（学校行事を除く）」の 7 項目、高校活動は上記に「アルバイト」を加えた 8 項目。
- (3) 「進路や人生設計に関する授業」「卒業生や著名人による講演会」「職業見学・体験」「課題研究・探究活動」「大学との連携による取り組み」「校外の各種行事（弁論大会、数学オリンピックなど）への参加」の 6 項目。
- (4) 国公立大学ダミーは、大学の入学難易度に関するコントロールの意味合いも持つ。
- (5) 「授業（宿題や課外授業などを含む）」「部活動・サークル活動」「趣味」「資格取得のための勉強（公務員試験対策など）」「習い事」「ボランティア」「海外留学（学校行事を除く）」「アルバイト」の 8 項目。
- (6) 「新聞紙でニュース記事を読む」「テレビでニュースを見る」「本（漫画・雑誌を除く）を読む」「漫画・雑誌を読む」「インターネットでニュース記事を視聴したり読んだりする」「授業内容の学修をする（予習、復習、宿題、課題作成を含む）」「家族と話をする」「友人と話をする」「家事をする」の 9 項目。

- (7) 「進路や人生設計全般に関する授業・講演会・ガイダンス」「自分の性格や特徴を知るための授業・講演会・ガイダンス」「社会の仕組みや業界の動向など社会を知るための授業・講演会・ガイダンス」「職業人、卒業生による授業・講演会・ガイダンス」「大学主体の職場体験学習やインターンシップ」「プロジェクト型学習、ワークショップなど大学内外の人と連携した課題解決型の取り組み」「就職後役立つコミュニケーションやマナーに関する授業・講演会・ガイダンス」の7項目。

## 参考文献

中央審議会（2011）「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」

[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shi-ngi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878\\_1\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shi-ngi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf),  
最終アクセス日 2020 年 12 月 28 日

林直子（2020）「『キャリア教育』にかけているもの－現状を顧みて－」『東洋英和大学院紀要』第 16 号,  
pp.75-83

石田浩編（2017）『格差の連鎖と若者 1 教育とキャリア』勁草書房

川崎友嗣編・安川直志・安川志津香・堀田三和（2019）『大学生のためのキャリアデザイン－自分を知る・  
社会を知る・未来を考える－』ミネルヴァ書房

児美川孝一郎（2016）『夢があふれる社会に希望はあるか』ベスト新書

Krumboltz, J. D. & Levin, A. S. (2004) Luck is no accident. Impact Publishers（花田光代・大木紀子・宮地由  
紀子訳（2005）『その幸運は偶然ではないんです！』ダイヤモンド社）

厚生労働省（2002）「キャリア形成を支援する労働市場政策研究会報告書要旨」

<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/07/h0731-3.html>, 最終アクセス日 2020 年 12 月 28 日

厚生労働省（2019）「『非正規雇用』の現状と課題」

<https://www.mhlw.go.jp/content/000679689.pdf>, 最終アクセス日 2020 年 12 月 28 日

厚生労働省（2021）「新規学卒就職者の離職状況を公表します」

<https://www.mhlw.go.jp/content/11652000/000845829.pdf>, 最終アクセス日 2022 年 9 月 25 日

厚生労働省（2022）「令和 3 年度大学等卒業者の就職状況調査（4 月 1 日現在）」

<https://www.mhlw.go.jp/content/11805001/000939599.pdf>, 最終閲覧日 2022 年 9 月 25 日

松岡亮二（2019）『教育格差－階層・地域・学歴』ちくま新書

溝上慎一（2004）『現代大学生論－ユニバーシティ・ブルーの風に揺れる－』NHK 出版

溝上慎一（2018）『大学生白書 2018－いまの大学教育では学生を変えられない－』東信堂

文部科学省（2021 a）「令和 3 年度学校基本調査（確定値）の公表について」

[https://www.mext.go.jp/content/20211222-mxt\\_chousa01-000019664-1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20211222-mxt_chousa01-000019664-1.pdf), 最終アクセス日 2022 年 9 月 22  
日

文部科学省（2021 b）「高等学校教育の現状について」

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/kaikak-u/20210315-mxt\\_kouhou02-1.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikak-u/20210315-mxt_kouhou02-1.pdf), 最終アクセス日 2022 年 1  
月 9 日

若松養亮・白井利明・浦上昌則・安達智子（2019）「キャリアに対する支援の課題と展望－『合格・内定指  
導』・『つきたい職業見つけ』を超えて－」『教育心理学年報』第 58 集, pp.201-216

---

## Can the Disparity in Career Planning and Realization be Recovered?: What Broadens the Horizons of University Students

Harumi Matsukawa and Junko Urasaka

---

About 30% of university students report having no prospects for the future. We examined how the life circumstances of students, especially before they enter university, influence to later career planning and realization. We conducted a web-based survey to acquire data on this point and received responses from 3,090 men and women within three years of graduating from a four-year university or completing a master's degree program.

The results of our analysis showed that life circumstances had a significant impact on both career planning and realization at the time of entering university. It was also found that those who could afford to do so could envision their careers more freely and were closer to realizing them. At the time of first employment, the influence of lifestyle on career planning disappeared, but it retained a strong influence on career realization. Meanwhile, it was also found that having more contact with others during the university years had a positive impact on both career planning and realization.

It appears that even the ability of university students to determine what they want to do is influenced by their upbringing. This is an issue that may have been overlooked in career education as presently administered.

**Key words:** Life circumstances, Career, University students, Career education

